

IMF サーベイ

2014年 IMF-世界銀行年次総会

今年次総会の主目的は より高い成長とより多い雇用創出

2014年10月9日



記者会見するクリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事：「成長が脆弱でばらつきのある時には新たなモメンタムがあるべきと信じている」（写真は IMF）

- 年次総会は新たな成長モメンタム（勢い）をいかに獲得するかを議論
- エボラ熱に襲われた国々がその克服のために財政赤字を出すのは「全く問題がない」
- インフラ投資は良好な短期的成長支援策

今週始まる IMF-世界銀行年次総会では、長期化した低成長から抜け出し、より高い成長とより多くの雇用創出をいかに達成するかについて議論する、とクリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事は述べた。

年次総会の開会に伴い10月9日に記者会見したラガルド専務理事は、最新の IMF 世界経済見通しで、世界全体の成長率予測をやや下方修正したことを明らかにした。

「『新たな凡庸のリスク』とわれわれが呼んでいる成長が脆弱でばらついている現状に直面しているなか、われわれは新たなモメンタムがなければならぬと信じており、それがこの総会期間中に加盟国と議論することだ」と述べた。

そして専務理事は「願わくばより高い成長とより多くの雇用創出、より質の高い成長とより良い雇用の創出を持つこの新たなモメンタムこそ、まぎれもなくわれわれが加盟国に作り出すよう訴えるものだ」と宣言した。

専務理事は今回の経済見通しの分析で各国の個別性が高まっている事に IMF が留意したことを明らかにした。つまり各経済グループの中で、一部の国は前進しているものの、他の国は遅れを取っている状況だ。その上で専務理事は、IMF が特に次の3分野で各国が行動を取ることを勧めている、と述べた。

- **金融政策** 特にユーロ圏と日本はそうであるが、今後は経済を下支えするためにより緩やかな金融政策が必要である。それと同時に米連邦準備制度理事会は金融政策の正常化に多分向かうことになるだろうが、IMF は新興市場国や低

所得国・途上国には市場のボラティリティの高まりに対する準備を進めるよう勧める。

- **財政政策** 労働市場改革を支援するように調整された財政政策に対して注意喚起した最新の [財政モニター \(Fiscal Monitor\)](#) で概略が示された通り、成長をよりたやすくする政策を策定、遂行できる。それに加え、最新の [国際金融安定性報告書 \(Global Financial Stability Report\)](#) で示されたように、金融行政政策は、金融システムをより健全にして回復に資する能力を強化するために、民間金融業務の節度を超えた部分を縮小することを目指さなければならない。
- **インフラへの投資拡大** これにより、大規模建設プロジェクトや補修工事などを通じて人々に働く機会を与え、短期的に成長を効率よく支えることが出来る。インフラ投資はまた、価値創造を実現、加速することにより、中期的にはサプライサイドに好影響を与えることもできる

エボラ熱対応

ラガルド専務理事は、エボラ熱感染が発生、流行した西アフリカ各国間でその対応策の連携に関わる各国代表や担当者らと既に会談したことを指摘、IMFがこの病気が原因で世界が直面している試練に対応する立場にあると述べた。

専務理事は「これらの国々が財政赤字を増やしたとしても全く問題はない」と述べ、これはIMFがいかにその資源を活用し、伝統的な基準を見直しているかの一つの表れと語った。IMFは9月、エボラ熱流行の中心地となっているギニア、リベリア、シエラレオネの西アフリカ3カ国に[計1億3000万ドル](#)の緊急金融支援を実施した。

専務理事はまた、多くの低所得国と途上国が目を見張る経済成長を達成していることに留意した。専務理事は、こうした経済発展がエボラ熱をさらに恐れるべきものになっているとし、その理由としてこの疫病の影響は経済回復を危うくし、汗水を流してようやく収めた成果を無駄に終わらせてしまう可能性があることを挙げた。

世界の政策課題

ラガルド専務理事は会見でIMFの[グローバル政策アジェンダ \(Global Policy Agenda\)](#) (ボックスを参照) を強調した。これは総会期間中にIMFの政策方針を決定する国際通貨金融委員会 (IMFC) で討議される。このアジェンダは今後1年間のIMFの業務の戦略的方向の概略を示している、と専務理事は説明した。

より高きを目指し、一層の努力を

2014年の年次総会でクリスティーヌ・ラガルド専務理事が提示する「グローバル政策アジェンダ」に掲げられた加盟国共通の目標は、成長を加速し耐性を構築するためにより高きを目指し一層の努力をすることである。

10月11日に開催されるIMFの政策方針を決定する国際通貨金融委員会（IMFC）で討議される「グローバル政策アジェンダ」は、加盟188カ国の政策優先課題とその支援のためにIMFが何をできるかの概略を示している。それはまた、ワシントンでの2014年春季会合で加盟国とIMFが議論した目標についての進展状況も報告する。

このアジェンダでは、IMFの最新の世界経済判断が心地の良くない聞きなれたものになっているとしている。つまり脆弱でばらつきのある回復で、成長率が予想を下回り、景気の下振れリスクが増しているとの見方だ。経済の成長を押し上げ、耐性を増し、均一性を回復するには大胆かつ果断に遂行される政策が必要だ。

[グローバル政策アジェンダ（Global Policy Agenda）](#)を読む

会見での質問に答える形で、ラガルド専務理事は欧州中央銀行が頑固に続く低インフレ率に内包するリスクに対する措置をとったと述べるとともに、この問題でさらなる対応が取られることをIMFは希望すると述べた。IMFはまたユーロ圏での景気後退の潜在的リスクを指摘しているが、専務理事は「もし正しい政策が決定され、黒字国も赤字国もなすべきことを実行すれば景気後退は避けられる」と述べた。

IMFのアラブ諸国への大変深い関与に言及して、ラガルド専務理事は補助金の削減や、健康及び教育、並びに貧困層に対するセーフティネットの供与などにおける財政の効率性の向上において多くがなされたことを指摘した。IMFは関与を継続するが、同地域は国際社会の配慮と金融支援を必要としていると専務理事は述べた。

ラガルド専務理事は、IMFの[2010年クオータ及びガバナンス改革](#)の承認は「絶対に必要なこと。改革は実行されなければならない、米議会でそれが現在滞っていることを皆が知っている」と述べた。専務理事は、米当局が世界経済の実勢を反映したIMFを持つことの重要性を認識することを希望すると述べた。

関連リンク:

[会見ビデオを見る](#)

[年次総会ウェブページ](#)
[凡庸な成長を越えろ](#)
[期待外れの世界成長](#)
[グローバル政策アジェンダ](#)